

# 横芝の碑

(その七十八)

## 二本松の山倉大神と庚申塔

屋形三本松の庚申様は、大正四年に近くの庚申様から分霊を勧請して建てられたものと伝えられている。とご紹介申し上げましたが、何処の庚申様の分霊であるか、ということについては、これといった話が残っていないようです。或いは、と思われる屋形地区内の二か所に建っている庚申様は、既に前回及び前回でご紹介申し上げた通り、それぞれに由緒の正しさが伝わっていますので、どちらが本家である、といわれても「成程」

と肯定できるのですが、其後、いろいろと周辺の方々のお話を伺っている中に、こんなことをお聞きしたので。

### 悪疫退散祈願に併祭された二つの祠

「三本松に悪疫が流行した頃、山倉大神(香取郡山田町に鎮座し、栗山川を逆上る蛙を供えて祭る蛙祭りの行事で名高い)の講中の人々が『他の地域には悪疫病魔退散

の祠等が祭られているが三本松にはない。疫病の蔓延はそのためではないか』という話が出たのが始まりである」というのです。

そういわれて、改めて庚申様を訪ねて見ますと、並んで建っている祠は確かに山倉大神のもので、内懐には山倉大神のお札さえ納められ、建立年月日も全く同じでした。そうなりますと、どうも分霊を勧請したのは山倉大神の祠の方ではなかったか、と考えられて来るのです。そして庚申様は、四社神社境内の万延元年建立のものと同じに庚申塔とだけ刻んだ同じ形のものなので、これを模したのだと思います。そんな風に断定に近いことを申し上げますのは、この三本松に悪疫が流行して、その退

散祈願のために建立された、ということを示し上げましたが、栗山川に係りを持つ山倉大神の蛙祭りにもやはり次の様な悪疫退散祈願の伝説があるのです。

昔、山倉村に疫病が流行し、人々は相續いで倒れ、神佛にすがらばかりでした。そこに訪ねて来られた弘法大師がこれを哀れみ、山倉大神に一月の祈願をして病魔を退散させました。喜んだ村人は、そのお札に、数える程しか上って来ない栗山川の蛙を獲えて山倉大神に供え、弘法大師にも食べてもらったのです。こうしたことがあつてから、病魔が退散した十二月七日には、毎年蛙祭りを行なつて感謝するのだということでした。(創樹社刊、高橋在久著、房総の年輪より)

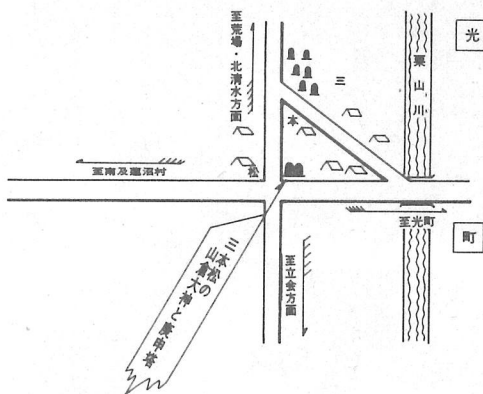
りますし、又郷土史研究会である木戸台の伊藤貴代司さんも「大正の初め頃、木戸台付近のミヨ(田圃の用排水堀割)に上つて来たのを獲えて山倉様に供え、お裾分けを戴いた気憶がある」と話しておられます。またテレビで蛙祭りの行事が放映されてもおりますので、栗山川蛙上りを信じ、放流された蛙の稚魚が、やがて栗山川に帰することを三本松の山倉様と庚申様に真底から祈りましょう。写真は、三本松の庚申様(左)と山倉大神(右)で、共に大正四年卯歳六月十五日、屋形三本松、と刻まれています。山倉大神の祠の懐にはお札が篠竹で押えられています。とにかく新らしく建立されたということ、この二つの石造は、かえって珍しい存在といえると思います。

町文化財審議会委員

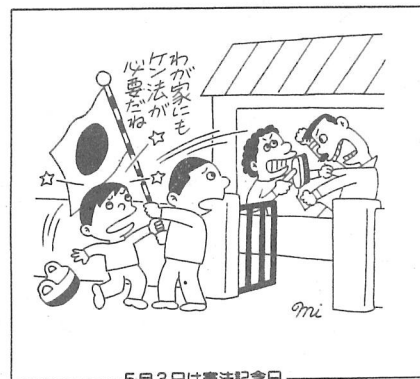
小沢春光氏寄稿



▲大正年代に建立された庚申様(左)と山倉大神(右)



この伝説にはいろいろ矛盾もあるようですが、悪疫流行に悩み、薬をも掴む気持になっていた三本松の山倉大神講の皆さんが、この悪疫退散の伝説を信じ、山倉大神の神霊を勧請したと見ても決して不思議はないと思います。



5月3日は憲法記念日